

台風二十三号

出石中学校二年 野村伊久磨

全く別次元の世界だと思っ ていました。し
かし、夢ではありませんでした。

午後五時三十分ごろ、消防隊の方が家にお
がり入人で、とくに避難指示はひてるぞ、
早く避難しなさい、と言っ てきました。し
かし、その時は家族はそれほど重大事とは思
わね、っじゃ、行こうが、と通帳や位はりを
持つて、自分達が避難場所と思っ ていた小坂

小学校へと急ぎました。しかし、十時ごろ、
堤防が決壊したという連絡が入りました。水
はもはや学校の一階分に達しようとしていまし
た。

次の日、思うように眠れなかつた僕は、ふ
と窓の外を見ました。まるで海のような波を
たて、小坂地区は湖と化してりました。保育
園の遊具はおがおがと浮いてりました。

その後、自衛隊のボートが来て、なんとか
脱出できました。

数日後、家の中を整理する作業に取りかかりました。荒れ果てた家を見ました。二階は何ともなかつたものの、一階はそれはそれはひどい有様でした。これが自分の家かし。僕はそう思つていた事を今でも覚えていきます。まあ泥の運搬にとりかかりました。しかし、頑張つても頑張つても一向に減る様子がない。泥に僕は疲れて、もう面倒臭くなりました。しかし、友達や部の先輩等が手伝いに来てくれたり、ボランティアの方々ががんばつて泥を運んでくださつている姿を見ると、よし、自分も頑張らなれよ。という思いが湧き上がっていました。

それから一年。今はほぼ元に戻つた家ではございます。いつものように暮らすことができています。自分達が受けた損害は計り知れませんが、この台風を経験し、何か大切な物を得られたのではないかと、今では思えるようになりました。ボランティアをしてくださった皆さん、ありがとうございます。ごさりました。